

技術資料 割竹工法・(W ブルスコップ等)

W スコップ等による掘削で、坪状、溝状に掘り下げ、土壌改良材の投入を行う通常、通気通水管として自然資材の割竹を使い代用する。



坪状に掘削



割竹、土壌改良材の投入



割竹工法 (坪穴に改良材と空気の竹)



排水性の立証



根の誘導性の実証



竹を抜くと根が集中している。

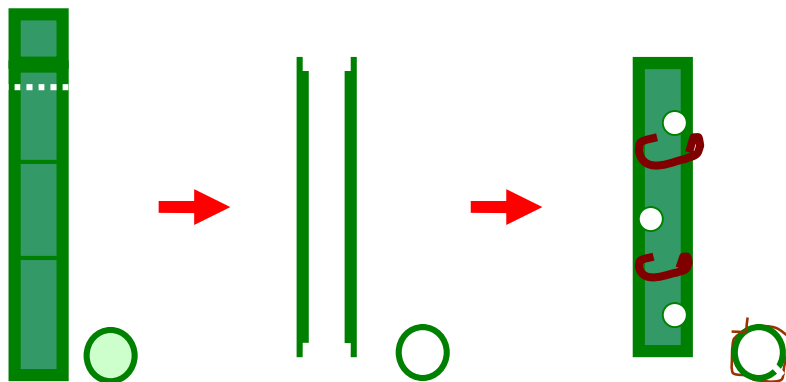
これらの組み合わせにより、樹種、樹勢、植栽環境を考慮した土壌改良を行います。土壌改良も土壌条件により、保水性を持った資材、排水性を持った資材等々使い分けます。

一般的な割竹の作り方

竹を切る
(長さ 50cm 程度)

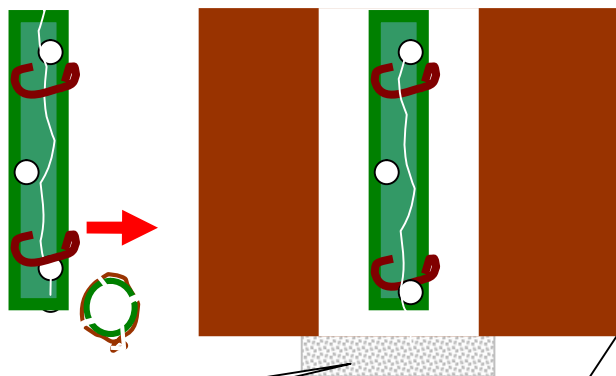
節を抜く
(バール等で)

穴を複数箇所空けてシュロで縛る
(径 1cm 程度)



竹を割る
(石の上でハンマー)
バラバラにならない程度

竹を W スコップ穴に入れる

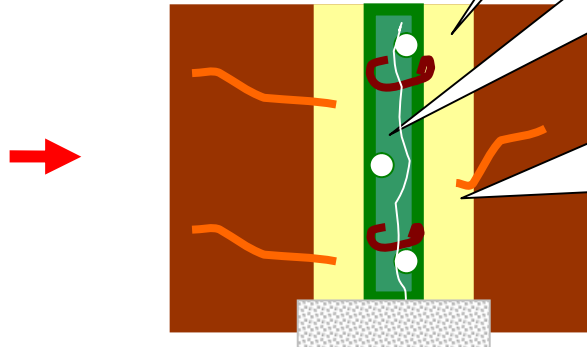


土壌改良材
関東、関西等场所や、
土壌条件により配合
は異なる。
注1) 後述参照

ホワイトローム等

土壌改良材 注1) を割竹の周囲に入れる。

竹の中は空洞でも
良いが、通気性のあ
る資材 (軽石、ホワ
イトローム大粒等)
を入れて持続性を
持たす。



根が出てきて切る場
合、キズをつけた場
合は綺麗に切り直し
てト殺菌剤を塗る。

割竹の炭化処理

割竹から腐朽菌の養分となる成分を減らし、耐久性等を確保する為に、炭化処理を行う場合があります。(竹の成分を変える)

(油抜き程度の炭化でも材質が変質し効果が得られます。)



炭化処理



穴空け



シュロ結束



割竹



炭化途中



ペグも炭化処理



処置済



処置済

注1) 安易にバークを入れたり、竹に確実な処置をせず埋設した場合、特定の病気に罹病した樹木に影響を与える場合があります。

グライ化した土壌や毛細管現象を断ち切る割竹は別途使用となります。